

# JTグループの新型コロナウイルス感染症に伴う 社会課題への支援について

---

日本たばこ産業株式会社  
サステナビリティマネジメント部

濱田 尚

2020年12月21日

## JTグループの支援への取り組み

想いは、人を、  
ひとりにしない。

会えなくても、人は思い合う。目の前にその人がいなくても、人は人に想いを馳せ、言葉にならない心の声にまで想いを巡らせる。大切な人を案ずる想い。立ち向かう人を応援する想い。すべての人々の穏やかな生活を願う想い。どんなに離れていても、想いなら、一人ひとり、さまざまなかたちで、人のそばによりそうことができる。想いは、人を、ひとりにしない。JTは、そう信じています。

# JTグループの支援への取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響に対し、支援テーマ×フェーズにて支援を検討・実施





赤色：プロジェクト型による支援 黒色：緊急支援策 灰色：他課題

支援テーマ・領域	① 緊急支援	② コロナ禍長期化により生じる課題への支援 ③ より良い復興に向けた支援 (Build Back Better)	④ アフターコロナ
■ ウイルス根治・ワクチン開発	・自社開発／開発資金	・治験／免疫検査	・安定生産
■ 医療崩壊防止	・医療物資の提供	・医療資源逼迫継続支援	・リモート診療環境整備 ・次なる脅威への対応
■ エッセンシャルワーカー支援	・感染予防	・心理的安全性確保（本人・家族） ・食料／衛生品の提供	・新たな格差への対応
■ 社会的弱者・困窮者支援	・食糧／衛生品の提供	・心理的安全性確保 ・複合的要因による被害拡大（DV等）	・支援の継続性担保
■ 地域産業支援	・経済的影響を被った業界団体等への緊急支援	・売れ残り在庫対策 ・再開に向けた継続的支援 ・消費の復活（飲食・旅館や地場産業）	・新しい社会への対応
■ 文化芸術活動支援		・制作者（フリーランス）支援 ・文化芸術活動の維持・復興	
■ 教育環境支援	・学びの保障 ・リモート教育	・大学生の困窮化	・感染症対策（開校対応） ・新しい社会への対応
■ 雇用・働き方	・雇用の確保／金銭補償	・雇用の安定化	・多様な働き方への対応

# JTグループの支援への取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響に対し、支援テーマ×フェーズにて支援を検討・実施

赤色：プロジェクト型による支援 黒色：緊急支援策 灰色：他課題

支援テーマ・領域	① 緊急支援	② コロナ禍長期化により生じる課題への支援 ③ より良い復興に向けた支援 (Build Back Better)	④ アフターコロナ	
■ ウイルス根治・ワクチン開発	・自社開発／開発資金	・治験／免疫検査	・安定生産	
■ 医療崩壊防止	<p>&lt;支援金の拠出&gt; 自治体、NPOや各種団体を通じた支援 計約200団体</p> <p>&lt;物的支援&gt; 医療品の提供 自治体やフードバンク等へ JTグループ食品の提供 施設開放 等</p>	・医療資源ひっ迫継続支援	・次なる脅威への対応	
■ エッセンシャルワーカー支援		<p>&lt;今後の備え&gt;</p>  <p>ARROWS 空飛ぶ捜索医療団</p>	<p>&lt;居場所支援&gt;</p> 	・新たな格差への対応
■ 社会的弱者・困窮者支援		<p>&lt;飲食店応援&gt;</p> 	<p>&lt;日本映画界応援&gt;</p> 	・新しい社会への対応
■ 地域産業支援		<p>従業員参画として 支援領域・団体向けのマッチング募金</p>	・新しい社会への対応	
■ 文化芸術活動支援	・新しい社会への対応			
■ 教育環境支援	・学びの保障 ・リモート教育	<p>従業員参画として 支援領域・団体向けのマッチング募金</p>	・新しい社会への対応	
■ 雇用・働き方	・雇用の確保／金銭補償		・雇用の安定化	・多様な働き方への対応

# 中央共同募金会を通じた「居場所を失った人への活動応援」

- ✓ 「居場所を失った人への緊急活動応援」は、家にいられない方や経済的困難に陥った方等への相談支援、生活支援、虐待のシェルター等先駆的・モデル的な活動に対し、公募による助成を行う取り組み。
- ✓ 社会的弱者・困窮者支援の「心理的安全性確保」「複合要因による被害の拡大」や「支援の継続性の担保」として“居場所の確保”は必要不可欠な支援と捉え、当該支援に協力。

## 支援内容



### 金銭的支援

より多くの団体が支援を受けられるようにサポート

### 物的支援

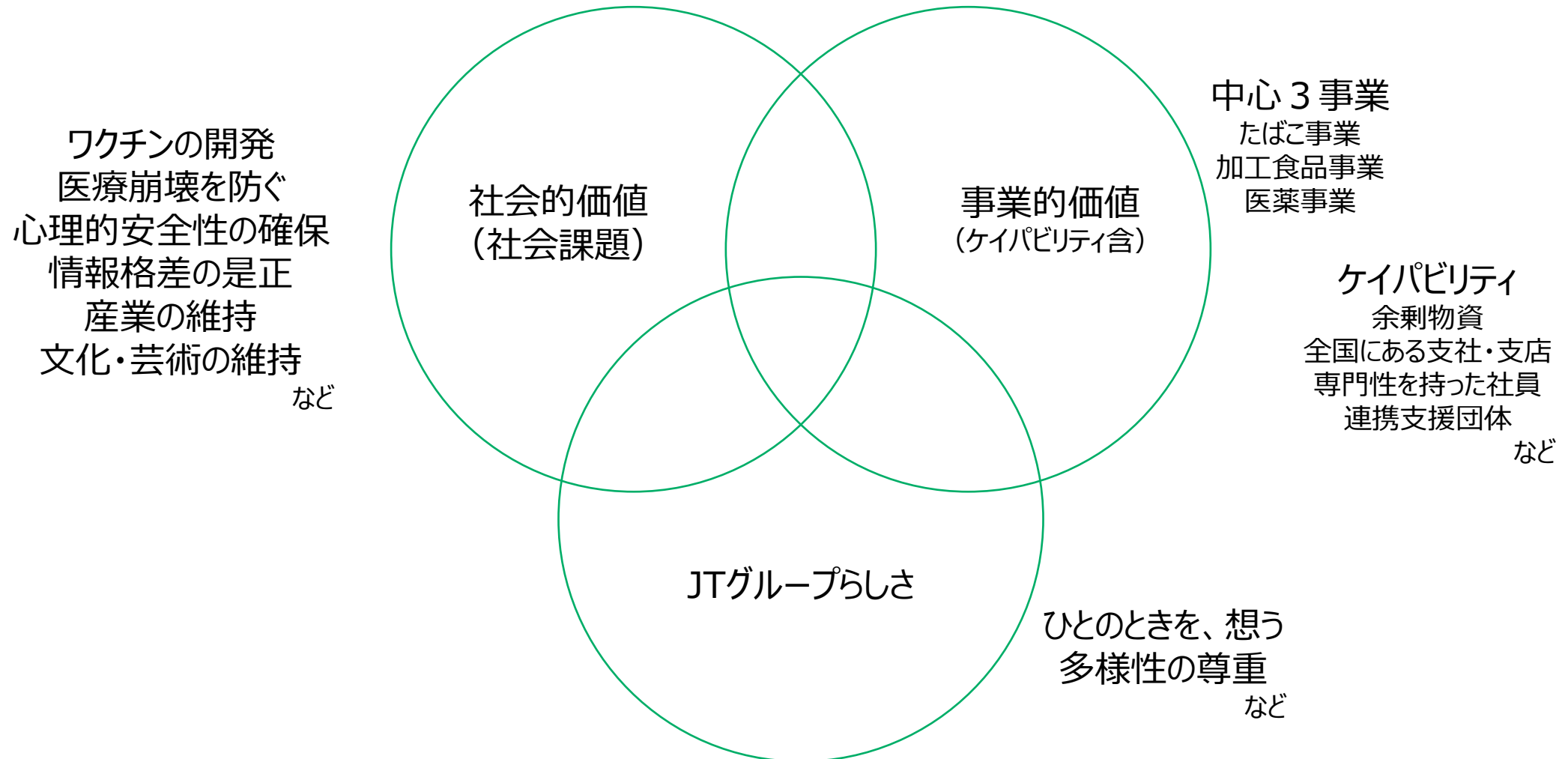
団体の受益者の方々や、団体の方々へ、食品としてパックご飯、ほっと一息をつくことができるようにお菓子やコーヒーといったJTグループ商品を寄贈

### 従業員参画

従業員へ活動を紹介するとともに、募金を募り、会社が同額を拠出するマッチング募金を実施

# 支援検討プロセス 支援の考え方

経営層から支援検討要請に対し、コロナ禍における社会的課題を洗い出し、JTグループのケイパビリティならびにJTグループらしさを照らし合わせ支援の方向性を決定。





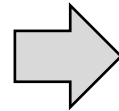


## 参考) 緊急支援を円滑に実施するためにガイドラインを改定

---

JTでは災害発生時円滑に支援ができるよう、「JT被災地支援ガイドライン」を制定している。  
今までは、自然災害における対応ガイドラインであったが、  
「感染症等の流行に生ずる被害」に対する支援も可能になるようにガイドラインを改定

旧ガイドライン  
災害の定義および支援の対象



新ガイドライン  
災害の定義および支援の対象

原則として総務省消防庁により災害対策本部が設置された案件を範囲とし、サステナビリティマネジメント担当執行役員が災害認定したものを支援対象とする。

原則として、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象又は、ウイルス、細菌等の病原体の感染に起因する感染症等の流行により生ずる被害に対して、政府または官公庁により対策本部が設置された案件を範囲とし、サステナビリティマネジメント担当執行役員が災害認定したものを支援対象とする。



# 支援検討プロセス 新型コロナウイルス感染症の影響の洗い出し

各種ニュース、連携支援団体ヒアリング、政府の補正予算組状況などを参考に、顕在・潜在社会課題を洗い出し

大項目	中項目	小項目
新型コロナウイルス根治	ワクチンの開発等	
医療基盤に関する事	医療崩壊を防ぐ／遅延	マスク・防護服・アルコール消毒等医療物資の確保 リモートでの診察環境整備 一時医療施設（テント等）の確保
	病床確保	ホテル等軽症者受け入れ先確保 輸送手段の確保
	医療従事者の安全・安心の確保	医療従事者の心理的安全性の確保 医療従事者の健全な生活 医療従事者の家族の安定的生活
社会基盤に関する事	困窮世帯支援	食糧の提供 医療品、衛生品の提供 社会的弱者の増加に対する相談窓口の強化 困窮世帯への継続的支援
	資金繰り難中小企業支援	特別貸付金（短期的キャッシュ） 飲食・旅館等の持続化 地場産業の維持 観光業（イベント等含）の維持 相談窓口の強化
	第一次産業支援	飲食店自粛による流通残商品の消費 入国規制による外国人材の不足等に対応した労働力の確保 次期作期を迎える品目の円滑な作付けの確保
	一般世帯支援	給付金 小学校等の休業に伴う母子への支援 新たな家庭内暴力・児童虐待の悪化への支援 雇用の維持 社会的弱者へのサポート
	葬儀関連支援	尊厳的なご遺体の埋葬プロセス（火葬場の安定運用等）
	学校再開支援	学びの保障／遠隔教育等支援 感染症対策 子供の体験活動支援 給食事業者支援
社会サービスに関する事	エンタメ（文化・芸術・スポーツ等含む）産業の維持	イベント・展示関連の復活に向けた支援 劇場関連、映画館、ライブハウス等、生活圏遊興施設支援
	観光産業の維持	観光資源の復活に向けた支援
	消費の復活	飲食店での消費促進 国内観光の推進 インバウンドに依存しすぎない地産地消の推進
	多様な働き方への対応・推進	テレワーク推進 副業・兼業の推進

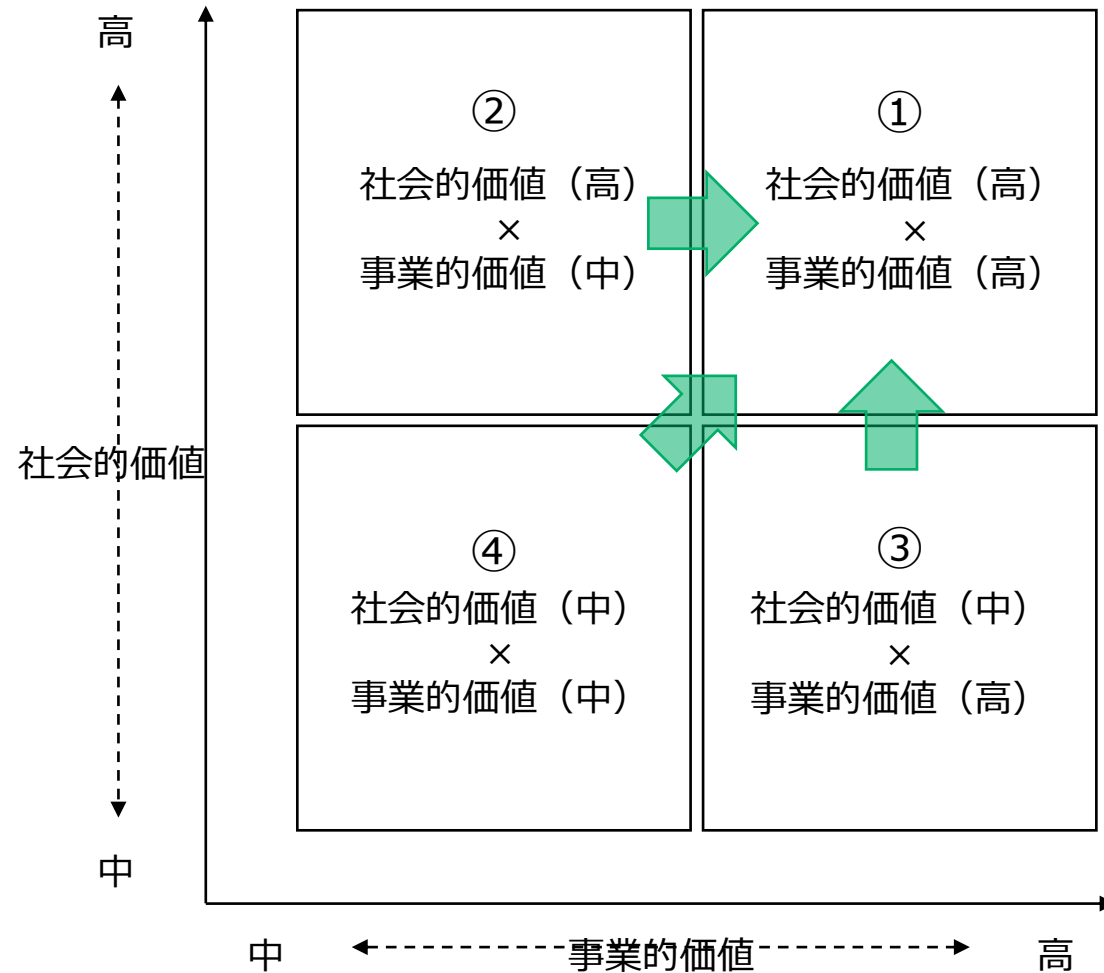
# 支援検討プロセス 顕在・潜在社会課題×フェーズ

顕在・潜在社会課題に実際検討しうる支援の洗い出しを実施

大項目	中項目	Withコロナ（ショック期）	Withコロナ（停滞期）	Afterコロナ
コロナウイルス根治	ワクチンの開発等	<div style="border: 2px solid green; border-radius: 20px; padding: 20px; text-align: center;"> <p>顕在・潜在社会課題に対し、 Withコロナ（ショック期） Withコロナ（停滞期） Afterコロナ の3つのフェーズに分け、 各々の小項目ベースの課題に対し、 「誰に」「何をどのように」といった観点で、 JTグループのケイパビリティ上、 可能な支援をアイデア出し</p> </div>		
医療基盤に関する事	医療崩壊を防ぐ／遅延			
	病床確保			
	医療従事者の安全・安心の確保			
社会基盤に関する事	困窮世帯支援			
	資金繰り難中小企業支援			
	第一次産業支援			
	一般世帯支援			
	葬儀関連支援			
	学校再開支援			
社会サービスに関する事	エンタメ（文化・芸術・スポーツ等含む）産業の維持			
	観光産業の維持			
	消費の復活			
	多様な働き方への対応・推進			

# 支援検討プロセス フェーズ毎に事業的価値と照らし合わせマッピング





各種アイデアをマッピングし、②～④にプロットされたアイデアを①に昇華しうるか検討。  
最終①にプロットされたアイデアについて、各支援団体等へヒアリングにてフィジビリティチェックを実施。



# JTグループの支援への取り組み

各種取り組みを実施。

赤色：プロジェクト型による支援 黒色：緊急支援策 灰色：他課題

支援テーマ・領域	① 緊急支援	② コロナ禍長期化により生じる課題への支援 ③ より良い復興に向けた支援 (Build Back Better)	④ アフターコロナ	
■ ウイルス根治・ワクチン開発	・自社開発／開発資金	・治験／免疫検査	・安定生産	
■ 医療崩壊防止	<p>＜支援金の拠出＞ 自治体、NPOや各種団体を通じた支援 計約200団体</p> <p>＜物的支援＞ 医療品の提供 自治体やフードバンク等へ JTグループ食品の提供 施設開放 等</p>	・医療資源ひっ迫継続支援	・次なる脅威への対応	
■ エssenシャルワーカー支援		<p>＜今後の備え＞</p>  <p>ARROWS 空飛ぶ捜索医療団</p>	<p>＜居場所支援＞</p> 	・新たな格差への対応
■ 社会的弱者・困窮者支援		<p>＜飲食店応援＞</p> 	<p>＜日本映画界応援＞</p> 	・新しい社会への対応
■ 地域産業支援		<p>従業員参画として 支援領域・団体向けのマッチング募金</p>	・新しい社会への対応	
■ 文化芸術活動支援	・新しい社会への対応			
■ 教育環境支援	・学びの保障 ・リモート教育	<p>従業員参画として 支援領域・団体向けのマッチング募金</p>	・新しい社会への対応	
■ 雇用・働き方	・雇用の確保／金銭補償		<p>従業員参画として 支援領域・団体向けのマッチング募金</p>	・多様な働き方への対応

# 今回の支援検討プロセスのPros/Cons

	経営層にとって	現場にとって	社会にとって
Pros	<ul style="list-style-type: none"><li>コロナ禍における支援可能性を幅広く検討した中での最終案のため、実施に対する納得感が高</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>検討に検討を重ねたことで、支援内容に対し、自信を持つことができた</li><li>コロナに限らず、社会課題に対する有効な検討スキームを得た</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>細分化し、フェーズを分けることで公的な支援で漏れがちな領域等への支援が可能に</li><li>緊急的な一過性の支援ではなく、息の長い支援が可能に</li></ul>
Cons	—	<ul style="list-style-type: none"><li>支援検討に多くの時間を割く必要があった</li><li>そのため、タイミングがずれてしまったアイデアも多数</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>今、まさに、といった支援のフレキシビリティは低い</li></ul>

## 新型コロナウイルス感染症の支援検討を経て

---

コロナ禍を経て、人々は「分散化」し「内向化」し、そして「不寛容化」に。  
今まで以上に企業も“サステナビリティ”の概念が必要と認識。

これまで



これから

単純な効率化  
≡ 多くのものを置いていく

狭く (集中と選択)  
浅く (PDPD…)  
短く (短期的判断)

持続的な構造  
≡ 多くのものを一緒に運ぶ

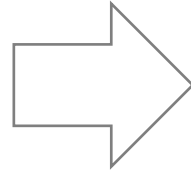
広く (多様な観点)  
深く (PDCA)  
長く (持続可能)

# 新型コロナウイルス感染症の支援検討を経て

---

“サステナビリティ”のために…

私



わたしたち





ひとの  
ときを、  
想う。 **JA**